

24. 河川整備に対する住民意識調査の結果報告

A SURVEY OF PUBLIC OPINION ON RIVER IMPROVEMENT PROJECTS

地球環境委員会「地球環境問題と地域水環境の研究」小委員会

清水 芳久*

Yoshihisa SHIMIZU

ABSTRACT; The benefit of inhabitants must be considered as a main objective of river improvement projects. In this research, public opinion on the projects was collected by a questionnaire including the questions on availability of the related information; important factors for river; the desired river, bank protection, and flood plain; and personal behavior with environmental consideration. The collected answers indicated that the information on river improvement projects was not entirely spread to the public, and both the flood control and natural environment were considered important regardless of expense of the projects, and the projects were not perceived by the public as close as the other environmental problems.

KEY WORDS; river improvement projects, questionnaire, information availability, flood control, natural environment.

1. はじめに

洪水や水不足によって生じる被害を回避し、これらを最小限に食い止めるために、ダムの建設や河川堤防の整備を始めとする様々な公共事業が実施されている。また同時に、水と緑が豊かな生活環境を創造するために、親水公園の整備や多自然型川づくり等も実施されている。これらの事業は、一般生活者（住民）の生活をより豊かにする目的で実施されるものである以上、一般生活者の意見を取り入れて行われることが重要である。

本調査では、現在行われている河川にまつわる色々な事業の中から、河川整備（特に護岸・河川敷の整備）を対象として、①情報、②重要な要素、③望ましい河川及び護岸・河川敷の形態、及び④個人レベルにおける環境配慮型行動、についての一般生活者の率直な意見を収集する目的でアンケートを実施した。アンケートは、1980～1981年にK市内に建設された団地（総世帯数1,100、T河川からの距離：約500m）から無作為に500世帯を抽出して実施した。また、アンケートの回答は、「家事を主に担当している人」に記入をお願いした。なお、有効回答数は168通（33.6%）であった。

2. 河川整備に関する情報について

図1に、熱帯雨林・酸性雨、二酸化炭素増加・オゾン層破壊、水環境汚染、ごみ問題、リサイクル運動、河川氾濫・水不足、及び河川整備についての情報との接触の程度に関する回答結果を示す。図1より、河川

* 京都大学工学部附属環境質制御研究センター

Research Center for Environmental Quality Control, Kyoto University

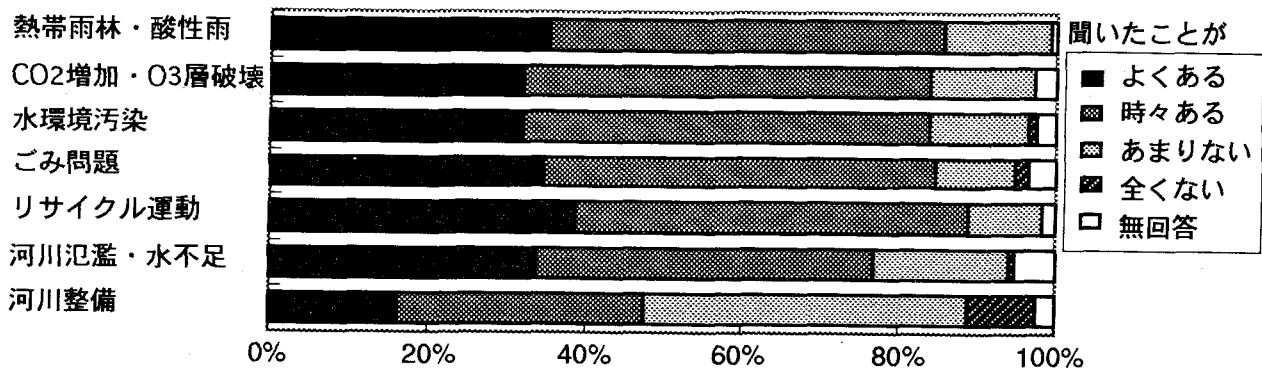


図1 情報との接触の程度

整備についての情報との接触が、他の環境問題と比較して小さいことがわかる。

図2及び図3はそれぞれ、「スーパー堤防」、「多自然型川づくり」、「親水公園」等の河川整備に関連する8つの用語を聞いたことがあるか否か及びこれらについて詳しく知りたいと思うか否かについての設問に対する回答結果である。これらの図より、これらの用語に聞き覚えがあり、また知りたいと思っている人が比較的多く存在することがわかる。

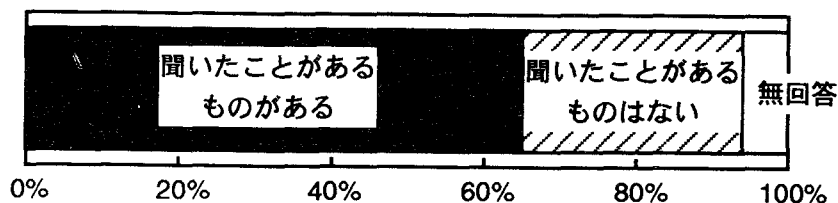


図2 河川整備に関連する用語を聞いたことがあるか？

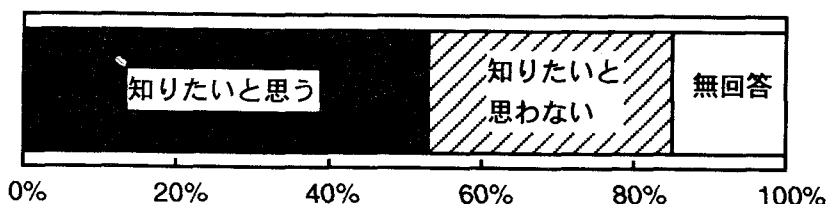


図3 河川整備に関連する用語について知りたいか？

また、図3の結果を、現在までの河川整備に関する情報との接触の有無によって分類して比較すると、その接触の有無の違いにより河川整備に関連する用語を知りたいと思う人の割合に相違があることがわかった(図4)。これは、過去において河川整備に関連する何らかの情報を得ている人は、これに対して少なからず興味を持っていることに起因する結果であるとも考えられるが、河川整備に関して一般生活者により理解してもらうためには、まず一般に受け入れ易い媒体(例えば、テレビ等)を利用して、高頻度に情報を伝達しようとする努力が必要であることを示唆する結果である。

情報との接触

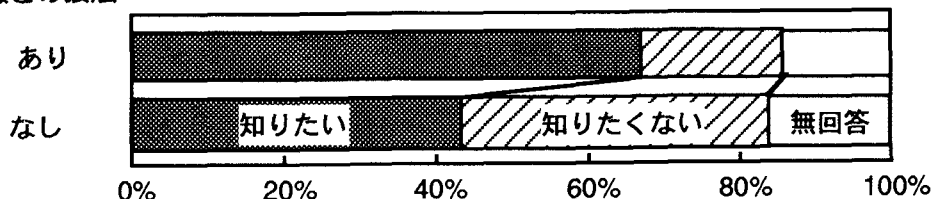


図4 河川整備に関連する情報との接触の有無と河川整備関連用語の知りたさ

3. 河川の重要な要素について

図5に、河川整備の際に重要であると思っているの要素についての回答結果を示す。利水対策が重要であ

るといった回答が最も少なかったことは、今回のアンケート対象地域においては、その上水取水源が琵琶湖にあることから、水不足問題が全国的に大きかった昨年においてもその被害を受けなかったことを反映する結果であると言える。しかし、この地域では、1980年以降（即ち、団地建設以降）における河川の氾濫が発生していないにも拘わらず、治水対策が比較的重要であると考えられていることがわかる。

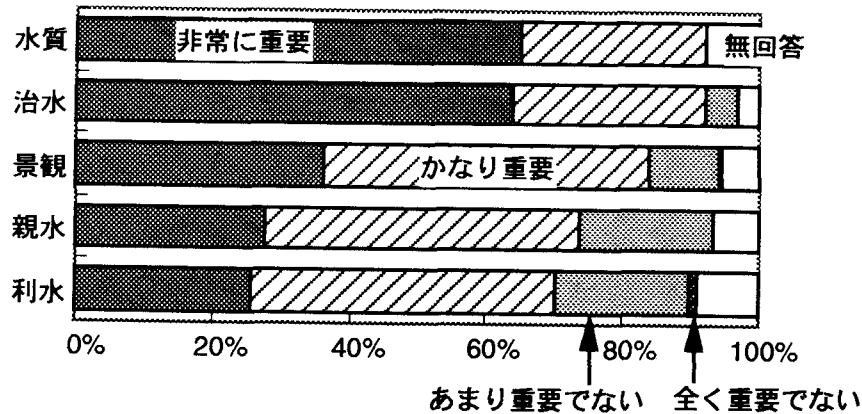


図5 河川整備における重要性

4. 望ましい河川及び護岸・河川敷の形態について

図6に、水質は泳げるほどきれいで、豪雨による氾濫等の問題は全く存在しないといった条件下で、護岸や河川敷の整備がされていない河川が近くに存在するとした場合、望ましい河川敷の形態を選択してもらった結果を示す。図より、アンケート回答者の多くが自然のまま或いは散歩が可能な程度の河川敷を欲していることがわかる。また図7に、自然と人間との関係は如何にあるべきかについて図6に関する設問の直後に尋ねた設問に対する回答結果を示す。図より、回答者の大部分が人間は自然に従うべき或いは利用すべきであると考えており、自然を征服すべきであると考えてはいないことがわかる。これらの結果は、今回のアンケートの対象地域近傍を流れる河川の河川敷が、散歩が可能な程度に整備されており、回答者の大部分はこの状態に満足していることを反映している結果であるとも考えられる。

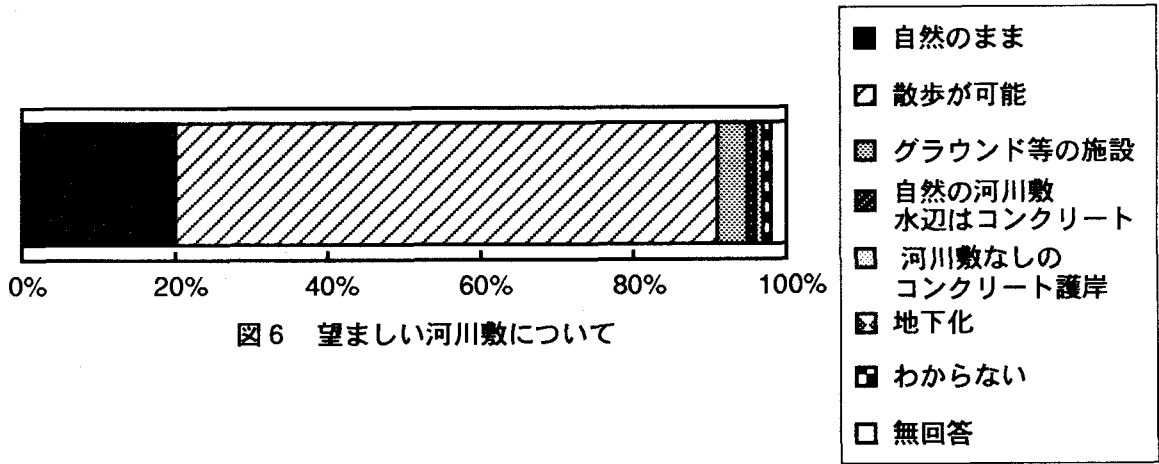


図6 望ましい河川敷について

河川における治水対策、水辺の美しさや潤い及び整備に必要な費用とのトレードオフ関係について、3つの選択肢（水辺の美しさや潤いよりも治水対策を重視して費用の安いコンクリート護岸、水辺の美しさや潤いと共に治水対策にも配慮して費用が増加したとしてもコンクリート以外の護岸、治水対策よりも水辺の美しさや潤いを重視するがコンクリート以外の費用の安い護岸）の中から回答者の考えに最も近いものを選んでもらった回答結果を図8に示す。この結果より、回答者の大部分は費用負担が増加したとしても、水辺の美しさや潤いにも配慮し、洪水に対する安全性を下げないように工夫されたコンクリート以外の護岸を整備することが望ましいと考えていることがわかる。

5. 個人レベルにおける環境配慮型行動との関係について

今回のアンケート調査では、主に家庭の主婦に回答してもらうことを想定していたことから、身近な環境配慮型行動として、家庭内で実施可能なエネルギー節約やごみ削減等の23項目についての実行状況も同時に調査した。この結果、

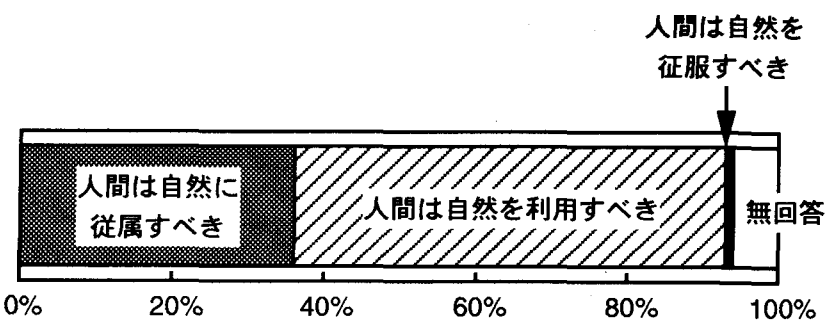


図7 自然と人間との関係は如何にあるべきか？

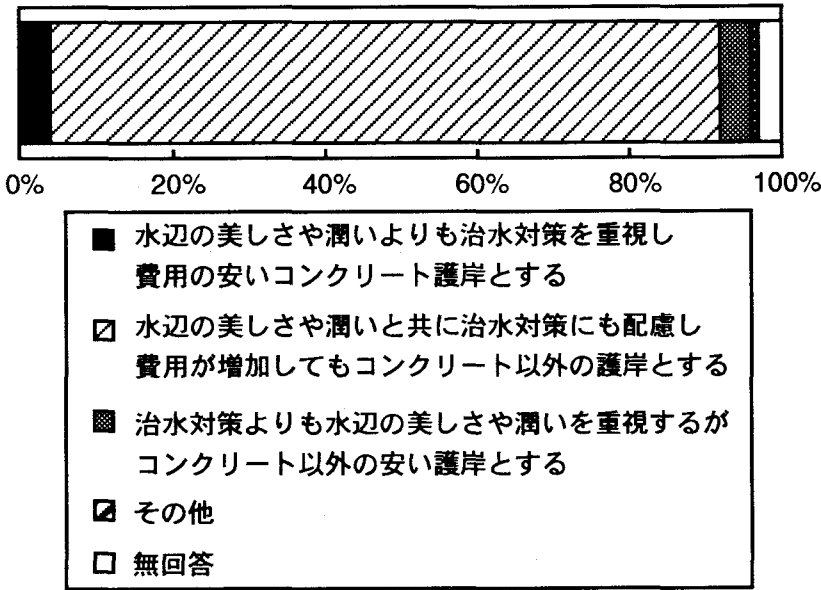


図8 河川整備における治水対策、水辺の美しさや潤い、及び費用とのトレードオフ関係

これらの環境配慮型行動の実施項目の平均値は16項目（約70％）となった。これらの個人レベルでの環境配慮型行動と図8に示した望ましいと思う河川整備についての関係は認められなかった。このことは、環境に配慮して行動している人が必ずしも水辺の美しさや潤いを望んでいるわけではないことを示しており、これは、河川整備に対する回答者の意識は身近な環境問題に対するそれに比較して遠い存在にあることによるのではないかと推察された。

6. おわりに

河川を整備するには、その近傍に住む一般生活者の要望を採り入れることが必要であり、このためには、一般生活者に、河川整備の重要性を他の環境問題と同様に或いはそれ以上に身近なものとして認識してもらうことが必要である。今回のアンケート調査から、河川整備の重要性を伝達するための情報が十分であるとは言いが、これに関する情報を望んでいる一般生活者が多いことがわかった。

今回のアンケート調査では、現在の居住地において水不足問題が無く、河川氾濫を経験しておらず、また、散歩が可能な程度の護岸・河川敷の整備がなされている河川の近くに住む一般生活者を対象とした。この回答者の大部分が、治水対策の重要性と共に自然が感じられる河川を望んでおり、整備のための費用の上昇を是認していることが明らかとなった。今回のアンケート調査は、ある特定の地域の一般生活者を対象としたものである。実際の河川について考える場合には、流域全体の住民の生活や意識及び河川との係わり方等を考慮に入れる必要があることは言うまでもない。